

アマダイ通信NO. 130

(Tile fish network letter) 2019年 スキー場に落の臺

知人・友人各位

平成から令和に天皇が代わる。国民の前で腰を折り、平和を語る平成天皇の姿に天皇主義者は不満のようだ。先の大戦の反省を語るが、日独伊の敗戦国の最高指導者で生き延びたのは日本の天皇のみ。配下の者が戦犯として処刑されながら、最高指導者は生き延び、生を全う。後継にも忸怩としたものがあって当然だ。結果として反対の側からの攻撃もやわらげ、多数の支持を得る。だが外からみると曖昧だ。地下のマグマの様に、日本は、天皇は戦争の責任を取っていない！と間欠的に吹き上げる。国民主権を謳い、法の下国民の平等を規定する憲法の下で、象徴たる天皇も又、国民なのか？これも又、曖昧だ。

◎起業と革命・・(祝) ふくちゃん完結！

NHKの朝の連続テレビ小説「ふくちゃん」、万平と福ちゃんの山あり、谷あり、波瀾万丈の起業人生。半年間面白く見させて頂いた。ハラハラドキドキ、崖っぷちの連続。全ての試練を切り抜け、人の役に立つてようやく成功。称賛され、ドラマにまでなる。起業ほど面白いものはないが、心臓の弱い方には勧められない。

起業より更に胸躍るのが革命。体制を転覆するのだから、秘密活動でスリリング。体制は法律で人を縛り支配、権力は警察・検察・裁判所・刑務所という実力支配システムで守られ、背後には軍隊という究極の暴力装置。圧倒的な人民を組織、暴力システムを包囲・対峙、粉碎するか無力化しない限り、勝利はない、命懸け。革命の大義のためには命を捨てていいという覚悟。成功しても個人的利益は期待しない究極の自己犠牲。革命の「大義」のために人生を賭けた青春時代。7回警察の臭い飯を食い、起訴され足掛け3年中野刑務所の独房に未決拘禁、一審で懲役1年半の実刑、二審でようやく3年の執行猶予。

人生の軌道を大きく外れても悔いはない。その後受験業界でアルバイトしながら学習塾や教科書会社を起業、他人に譲る。40の手習いでサラリーマンに。知り合いに誘われ50で起業したエコビジネスは資金繰りに失敗、半年で頓挫。窮余の策の営業顧問業は今に続く。傍らミサワホームと高橋カーテンウォールで机を並べた同学の後輩に誘われ、彼が2、●が1の割合で出資、起業。彼が社長、●は役員として主に営業を担当。国の補助金5億円を得、10億円で工場をつくる段になり、ベンチャーキャピタルなどから2億円余の出資を得、残りを融資で賄い工場も完成。苦勞して製品もつくり、営業の目処もつく。気がつくと創業者二人は併せて一千万円出資するだけの少数株主、会社の支配権を失う。ファンは創業経営者二人に不満があったか、先ず●が追放され、続いて社長も。好事魔多し、資金が集まり新技術を事業化、世の中の役に立てると喜んだ時に二人はその地位を失う。●は資本の論理に2度敗北。一度は土俵の外で、2度目は土俵に上がった途端に。

我が半生も山こそ万平ほど高くないが、谷底の深さでは負けない。這上がるのに苦勞もし、万平と福ちゃんには共感、ドラマは多いに楽しむ。だが起業と革命の間にはゴルフとスキー以上の違い。リスクの大きさとダイナミズム、スリリングさで天地の差。何よりも無私精神、自己犠牲。私利私欲、打算でも起業は出来るが、革命は出来ない。リスクが大、成功の確率は少ない。「人のため役に立ちたい！」との強烈な意志があって初めて

革命運動に参画出来るが、「人のため役に立つ！」という、強い意志に導かれてこそ、起業も大きく成功出来る。起業の疑似革命たる所以か！

◎10億円と20万円・・いつまでも人の役に立ちたい！

先日の朝日新聞、乗り換え案内のジョルダンの佐藤社長のインタビューが載る。子会社を設立、新しい交通サービスシステム MaaS (モビリティ・アズ・ア・サービス) を起業するという。佐藤社長は大学で2年下、駒場で一緒にデモに参加したりしていたらしいが、その頃は知らず。「祭」が終わり海城高校などの私立高校を借り中学生相手の講習会や高校入試の模擬試験をしたり、そのための教材を作る学内のアルバイト団体、「東大学力増進会」で一緒に講師をしたり、教材を作ったりして以来の仲。理科 I 類から工学部に進学、理系では必修の、折から勃興するコンピューターの知見を活かし、ジョルダン (ジョルダンの定理で有名な数学者から社名を頂く) を創業、「乗り換え案内」という新分野を確立。ジョルダンの商品名だった乗り換え案内が、一般名詞になるくらいの「革命」を起こした。

コネクテッド、自動運転、シェアリング、電動化という車の次世代技術「CASE」と車、鉄道、バス、電動自転車、スクーター、徒歩などの情報を全て結び付け、より早く安く最適に移動する手段をユーザーにスマホで提供、料金も決済するサービスが「MaaS」。鉄道と自動車が発明され、全盛を極めた馬と馬車による人荷の運搬が、急速に片隅に押しやられ絶滅、馬場と競馬場に痕跡を残すだけとなったのと同じようなドラスティックな変化が起こりつつある。クラウド上で全ての交通手段が動き、快適な移動が実現する。古くからの友人を手伝い、新しいことを学べるのは嬉しい。

朝日新聞の同ページに大臣を歴任、82歳の亀井静香元衆議院議員の「挫折と挑戦」の記事。一回りほど上の同学の先輩が、再生可能エネルギーの普及を目指すMJSソーラー社を起こし、ゴルフ場跡地2ヶ所、養鶏場跡地を1ヶ所取得、メガソーラーを建設。バイオマス発電所用地も取得、「脱原発」という己の信念の実現のため、リスクを取り起業したのは素晴らしい。脱原発派の小泉元総理の激励に「彼は口だけ」と笑い飛ばす。

スマホも使えないが、人をコネクトすることは得意。10歳上の元警察官僚で自民党の大物政治家亀井先輩。学生運動の活動家だった時代の追う立場と追われる立場以外、関係無さそうだが、一度だけ会って頂き、お力を借りた。三鷹寮同期の高見邦男君が主宰する中国黄土高原緑化NPO法人「緑の地球ネットワーク」の10周年記念写真展を、京都駅、広島駅、岡山駅、大阪駅とJR西日本の社長、会長をされた三鷹寮の南谷先輩に趣旨に賛同して頂き開催、名古屋駅でもJR東海の社長、会長をされた入学が後輩で、卒業は先輩の山田さんに尽力して頂き開催。次は東京駅だと意気込み、JR東日本の先輩に窓口を紹介して頂くが、全く許可が下りる気配なし。新聞の片隅に「元運輸大臣亀井静香日中緑化議員連盟会長が訪中」の記事。これだ！伝手を頼り面会、JR東日本の総務担当常務に会って頂き、賃料1日93万円の東京駅丸の内北口ホールを10日ほど無料で使わせて頂く。

「若かったあの頃何も怖くなかった」という唄そのまま、自分の信念に従い犠牲を厭わず7回警察のブタ箱に。最後は起訴され足掛け3年中野刑務所の独房に。40才までフリーター。保釈金20万円の若き闘士と10億円のゴーン。人間の真価が問われるのはこれから。人生に保釈金の違いほどの差はありや？エリートコースを順調に歩み、「毎日が日曜日」が多くなった仲間から「社会に出るのが20年遅かったから、20年長く働け！」と言われる。

よく働き、よく学び、よく遊ぶ。求められる限り、人の役に立ちたい。

◎ながら介護？・・人生百年時代の「受援力」

3月14日の日経新聞で「人生100年時代」は「家族と同居している場合は『ながら介護を受け入れることも大事』と樋口(恵子、高齢社会をよくする女性の会)さん。家族が仕事をしながら介護する、ときに休息を入れながら介護する。介護が長期にわたると、家族も高齢者自身も互いに行き詰まってしまいがち。介護離職する原因にもなる。『(自宅の外で介護を受ける)ショートステイやデイサービスも上手に利用するのが、大事な心構え』と説く。デイサービスの他、10日なり2週間なり妻を介護施設に預け、海山に遊びスキーや素潜り、ゴルフや海辺で読書三昧、孫娘と身近な海外ツアーを楽しんだりの🐟。多少後ろめたさがない訳ではない。我が意を得たり。介護人にも息抜きや気晴らしは必要。働くことも大事。気力、体力、経済力が続かない限り、介護も続けられず、共倒れ。

日本人の平均寿命は男81.1才、女87.3才、100才超も7万人。人生100年時代だが、平均寿命と健康寿命の差は縮まらない。人間、オギャーと産まれて、自分で自分を養えるようになるまで何年？養って貰うだけではない。親には育てる喜びを与える。年老いてその逆を生きる。介護人が貰う喜びもある。

保育所があれば「託老所」がある。平均寿命と健康寿命の差を支えるのが介護保険制度。保育の社会化と介護の社会化。大変な時期を家族以外の支援も借りて乗り切る必要。援助を上手に利用する力を「受援力」というらしい。恥かきを楽しみながら生きて72年、妻70才。あと何年続くか？「支えられ上手」になり、「受援力」を発揮したい。

◎介護の社会化と家族生活のQOL

介護の社会化により家族にかかる負担を少なくし、それぞれの生活の質(QOL)を維持し介護を持続、併せて介護制度で新しい雇用も生まれた。3月20日夕方から大阪での年1回の三鷹クラブの講演会に合わせ、3月18日から4月4日まで妻は介護施設にショートステイ。春休みの小4の孫娘と週末泊まりがけのスキー、仕事のアポを入れにくい年度末、年度初めを利用、孫娘と3泊4日の安い韓国ツアー。

3月17日の日曜日、灯りをつけて妻を起こし、着替えを手伝う。食事を用意して食べさせ、風呂を沸かして一緒に入り、三助。洗濯機を回しベランダに干す。ショートステイするのに保湿剤や入れ歯洗浄剤、めがね洗浄液などが欲しいという。10時の開店と同時に近所のドラッグストアへ。掃除の暇もなく、12時開演の三鷹クラブと東京銀杏会共催、27名参加の国立劇場の歌舞伎観劇会に。読むのもままならない日経新聞を鞆に入れ地下鉄を乗り継ぐ。主催者の🐟だけ遅刻。

昨年夏、妻の容態が一夜にして要介護1から4に急変、大ピンチ。最近悪いなりに状態が安定。平日は朝食を作り食べさせ、新聞とテレビを見ながら一緒に食事、7時半から朝の連ドラを見ながら後片付け。娘のマンションに寄り、4歳の孫息子とお手々つなぎ保育園に同伴出勤。妻は昼と夕は宅配の弁当を食べ、30分ずつヘルパーさんが介助。🐟が酔って帰るとスヤスヤ。週2回は近くのデイサービス施設に迎えの車で通い、リハビリと昼食、入浴サービスを受ける。毎週の訪問看護と在宅の訪問リハビリ、隔週の医師の訪問診療と薬剤師の服薬指導。月一回の病院通いには福祉タクシーを呼び🐟が半日付き合う。

小康状態を保っていても、このレベルでの「安定」がどこまで続くか？人間の命に限りがある以上、それぞれに目に見えない変化は起こる。目に見えない変化の量が積もり質に転化、ステージが変わる日が来る。夫婦のどちらに、いつ、どんな形で変化が訪れるか？しばらくはこんな生活が続く。

◎がんも治る病気に・・・それでも

ゴルフ仲間の A さんの大腸にがん。腫瘍の径の大きさは 5 センチほどと同じでも、●は平面的、自覚症状なし。A さんは立体的で腸を塞ぐ形で痛みを伴うなど色々悪さ。容積は A さんが断トツと思うが。リンパ腺に 1 ヶ所転移があっても腫瘍マーカーが劇的に下がり、転移した部位も取りきれ、転移がない！ステージⅢa の判定。術後の抗がん剤治療も不要。●はリンパ腺を 9 か所取り 3 か所にがんが転移、腫瘍マーカーも高いのでⅢb (ほとんど治癒する見込みなし)、5 年間抗がん剤治療。今やがん患者の 5 年生存率は 50%以上、大腸がんはさらに高い。がんも不治の病ではない。裏返せば半数近くの方は亡くなる。矢張り不安。古来「先達こそあらまほしけれ」。●の大腸がんを手術、奇跡を実現したゴッドハンド、同学の後輩、お茶の水駅前の東京都教職員共済組合三楽病院の阿川院長を紹介する。

●ゴルフ仲間にガン宣告

☆腸に腫瘍が見つかりました。大腸の内視鏡検査で三楽病院に 1 日いました。看護師さんたちが優しく感激しました。20 代のころ盲腸を手術したところに腫瘍がありました。院長の患者で皆さん親切でした。●さんの言われるように普通に暮らします。報告まで。

★その後体調如何ですか？ノ一気味で鈍感力が強い●は、がんだと言われても(毛細血管が集中し赤く盛り上がった CT 画像を見て、がんですよね！と自分で自分にがん宣告したのですが)、昨日の自分と今日の自分に違いがある筈がない、今日と明日の自分にも！と手術の日まではいつもと変わらない生活を続けていました。A さんは如何ですか？取り敢えず、土曜日のゴルフどうしますか？一緒にプレー出来ると嬉しいのですが？

☆妹は 20 年前に子宮がんが進行してリンパ腺までいき、象さん脚になり、脚の手術もしました。元気で生きています。私は父親似なので、ずっと癌体質でないと思っていました。今日の午後診断が出ますが、何でも運命と受け止めます。癌は痛くなったら末期と聞いてますが、私のはチクチクから始まって今はかなり痛いので、ゴルフを止めました。明日は良い天気のように気持ち良いでしょう。有り難うございます。

☆お仲間になりました。大腸の腫瘍は全部が癌だという人もいますが、阿川先生から●さん同等サイズと言われました。今日はどこまで転移しているか検査しました。来週から阿川先生から外科部長に移ります。

☆患部は●さんと同じ場所です。●さんも抗がん剤をかなりしたのですね。苦しいと聞いています。先日サントリーの i さんにがんが見つかったので、ボランティア活動を休むとメールしたら、●さんのように前向きに、と励まされました。前向きに行きます。

●手術のお礼は？

☆阿川先生から外科部長伊藤先生に替わりました。まだ検査が残っていて、手術日は暫定 12 月 7 日と言われています。教えてほしいのですが、オペの際お金の御礼を三楽病院では受けとりますか？お金をプールするところもあると聞いています。●さんの場合はいかがされましたか。よろしくお願ひします。

★「叛秩序派」で常識に疎い●は元々そういう渡世の義理には疎いし、ナースセンターに「お断り」の張り紙もありましたので、そういうものだと気にも止めず、何もしてませんでした。●の手術は5時間ほどかかりました。体力勝負なので、若い伊藤先生が執刀されるのですね！阿川先生も●を手術してくれた15年前は若かった。

☆さっそく有り難うございます。御礼は様子をみます。昨日伊藤先生からステージ3と言われました。妹夫婦が待合室に来て御礼のことが出ました。妹は旦那の従弟が慶応病院にいたので、全部慶応です。私は三楽病院でよかったです。先週阿川先生の診察に入っていると、ボランティア団体の友人で、80歳の女医さんから携帯電話に三楽病院にきていると連絡があり驚きました。幾つかの検査に付き添ってくれて、母がお世話になった病院と言っていました。●さんと違って、私は食欲がないしお腹が痛くて、癌より辛いです。あともう少しで取ってもらえます。

★術後は抗がん剤の投与ということになると思います。●は珍しく殆ど副作用がなくて、喉がいがらっぽくなったのでシロップを貰って飲んだ程度です。一般的には脱毛、吐き気などの副作用があるかと思います。それでも大腸がんは切ってつなぐだけで生活に変化がありません。胃、食道、肺がんに比べると楽勝です。不幸中の幸です。

☆腫瘍より腹痛や食べ物の味がしないなどの副作用が辛いです。食べないと体力がないと分かっているけど、食べるのが苦痛。明日の午後診断が出て、外科部長さんも交えて手術日が決まります。早く切りたいです。ゴルフは暫くお休みです。元気は少し出てきたので頑張ります。有り難うございます。

☆来週4日入院、7日手術にたどり着きました。個室が一杯とかで、どうなりますか。独り暮らしが長いので、大部屋に耐えられますかね。まあ入院して考えます。

☆手術は7日ですが、伊藤先生にお願いして、今日から入院させて貰いました。個室に入れて快適です。病名は盲腸癌と書いてありました。手術予定は3時間で、執刀は伊藤外科部長の前に女医さんの名前がありました。心配な心臓に頑張ってもらい、元気になります。有り難うございます。

●手術終わりました

☆心配な心臓ももって、3時間で終わりました。腫瘍は特大でしたが、腸内に留まっていた。抗がん剤治療が必要か調べています。切ったお腹や背中が痛くて悲鳴をあげました。痛み止めに早くください。

☆今日の昼から食事が出ました。今日は6日目で元気が出てきましたが、ひさしぶりの食事に疲れしました。まだ半分も食べられない。元気になりたい！

★まだお粥ですかね。食べる喜びもいいでしょ。切って繋いでしまえば元通りなので、同じがんでも大腸でラッキーでした。ゴルフへの早期復帰期待してます。

☆今日の昼にクラムチャウダが出ました。あまりの美味しさに感動して涙が溢れました。本当に辛かったですね。そこに妹が来て驚いていました。

★一段と寒くなりましたが、病室では余り感じませんね。年内には取り敢えず退院でしょうから、近々一度顔出しましょう！新しい発見ありましたか？

☆今日三楽で診断、リンパ18個のうち1個に転移、腫瘍マーカーが劇的に減りました。抗がん剤治療はしなくてもと言われましたが、安心のために飲み薬をもらうことにしました。ステージⅢaですから、お陰さまでひとつ山を越えました。

★おめでとうございます。a と b では段違いです！腫瘍の径の大きさは同じでも、色々悪さをするほど大きさはAさんの方が断トツだったと思います。一ヶ所転移があっても、腫瘍マーカーが劇的に下がったことで、転移した部位も取りきれた、従って転移がない！Ⅲa という判定なんですね！🐟はリンパを9か所取って3か所にがんが転移、腫瘍マーカーも高かったのでⅢb（ほとんど治癒する見込みなし）の判定。5年間抗がん剤治療をしました。おめでとうございます。せっせと食べて、早くゴルフに復帰して下さい！

のニューージーランド紀行（Ⅳ）

（'16.05.01～08, トラピックス, 新・まるごとニューージーランド8日間）

⑦人口稀薄な国と日本の過疎地の交通

クライストチャーチの空港を目指し7時半ホテル発、490km7時間半のバス旅。ホテルで眠る時間より、バスに乗っている時間の方が長いようなツアー。旅客鉄道がないので高速定期バスが走り、早割、年齢割などの各種割引制度がある。日本では少子高齢化が進み減ったとはいえ、まだ1億2千6百万人以上の人口を抱え、旅客交通の大動脈は新幹線。まだ新しい新幹線やリニア新幹線を建設。高速道路は渋滞が多く定時制に欠け、大量輸送に向かない。他方、人口密度が薄く旅客の大量輸送の需要が少なく、車の密度も低く、道路の渋滞も少ないニューージーランドでは、都市間ではバスによる少人数の多頻度高速道路交通が行われる。少子化が進む日本でも、人口稀薄な地方の交通のあり方として、ニューージーランドは参考になるのではないかな？

深い谷にかかる橋に、元祖ビジネスバンジーと言われるジャンプ台。下車するが高所恐怖症の🐟には鬼門。美しい青碧色の湖面にマウントクックを白く映すプカキ湖に又、立ち寄る。五胡の湖面に映る逆さ富士に似る。独特の淡い青碧色、デカポブルーの湖面の向こうにもマウントクックが白く聳え、湖面に映える。この国で9番目に大きいテカポ湖の湖畔には善き羊飼いの教会。紫の咲き遅れのルピナス。この小さな教会は1935年にヨーロッパからの開拓民らが周辺の石を集めて建てた。祭壇奥の窓から乳白色がかった碧い湖面が見え、その湖面にもマウントクックが映える。額に入った絵の様。近くにバウンダリー犬の像。開拓時代、柵のない放牧地で境界線（バウンダリー）を守った牧羊犬を称える。ニューージーランド名物！マスの親子丼のお昼。ビールとお酒は6ドル。食後のコーヒー4ドル半。軍の駐屯地があり、黄色い軍用車が並ぶ。果物の生産で有名なクロムウエルの果樹園に立ち寄る。ブドウ畑と、どこまでも続くポプラ並木の黄葉が輝く。空気がきれいだから？陽の光が、黄葉まで輝かず。名産のワインを楽しむ時間はない。

夕方6時、ニューージーランド航空機で1時間20分、オークランド着。ハーバーブリッジをバスで渡り、328m、南半球一の高さを誇るスカイタワーを望む。ハーバーブリッジはシティとノースを結び、ワイテマタ港をまたぐ全長1020m、重要な交通機能を担う。アーチ部分を歩いて渡るアクチビティとバンジージャンプがある。スリル満点だが、高所恐怖症の🐟は考えただけでおしっこが漏れそう。現地時間翌朝8時45分発のニューージーランド航空直行便で11時間の旅、4時50分成田着。

⑧豊かな移民先進国・・「少子化」時代のお手本？

前年、隣国オーストラリアのシドニーツアーも短期間だったが、路上生活者を見かけたのは二人だけ。ニューージーランドでは一人も見かけず。🐟の目が節穴なのかも知れないが、

その節穴にも新宿の街を歩けば否応なくホームレスの姿が飛び込む。東京でさえ昨今、見かけるホームレスの数が少なくなった気がする。生活が豊かになった実感はないが、「人手不足」が叫ばれ、海外からの労働力の移入、移民の可否が論じられる経済状態だからか。ニュージーランドでは、住宅価格が高騰、働いても住む住宅が手に入らず、車上で暮らすホームレスが増えているというニュースも。住宅政策レベルの問題だが、やはり🐟の目は節穴か？旅人の目は魚の目とはいかない。360度は見えないようだ。

2018年のニュージーランドの人口は487万人、日本は1億2千6百60万人で日本の人口密度は335人/km²、ニュージーランドは17.9人/km²、人口減少中の日本と違い増加率は2.14%、緩やかに増加。内訳は移民増加率が1.54%、自然増加率（出生者数－死亡者数）が0.6%。稀薄な人口密度と豊かな国民生活が人口の自然増加をもたらし、併せてリベラルな移民政策が移民を引き付ける。この3月、クライストチャーチで、銃で武装した男がモスクを襲撃、49人が死亡した事件。犯人はニュージーランドが移民によって脅かされていると主張。移民の増加でニュージーランド人の雇用が奪われ、住宅価格が押し上げられているなど、ヨーロッパやアメリカと同様、移民に対する批判も。しかしニュージーランドは隣国オーストラリアと同じく、19世紀頃からヨーロッパの白人が移住、原住民マオリの土地を奪う形で入植地を広げ成立した移民国家。移民の労働力及び国家への「貢献」は概ね肯定的に評価され、又それなしでは国の経済は立ち行かないと周知。ここが「労働力は欲しいが定住は嫌」という日本と違う。今回の事件をうけ、ニュージーランド議会は、殺傷力の高い半自動小銃などの販売・所持を禁止、銃を買い取る法案を可決。アメリカと違うところだ。リベラルな移民政策は維持される。

2017年のニュージーランドの名目GDPは2015億米ドル、一人当たりでは42400米ドル、日本は其々48732億米ドル、38348米ドル。グロスでは日本は中国に抜かれたとはいえ、ドイツを抑えて世界ランキングでは堂々の3位、ニュージーランドは20位にも入らないが一人当たりGDPでは日本を逆転、16位、日本は20位。個人生活のレベルではニュージーランドの方がはるかに豊か。日本全体の少子高齢化の速度をはるかに上回って、地方の人口減少が続き、耕作放棄地が増える。そんな日本の農村でも一戸当たり農地が43.5ヘクタールと全国平均の18倍もある北海道の更別村が、日本で最も豊かな農家の住む村として注目される。年間所得5、6千万円はざら、2億、3億稼ぐ農家も珍しくない。高級外車に乗り、農閑期は海外研修に行く。人口密度が違うので、日本と同列に論じられないが、ニュージーランドの農家は更にその上に行く。両国は四方を海に囲まれた島国で、農業に必須の水資源の豊かさで共通する。ニュージーランドの豊かな農村を見て、日本でも更に離農が進み農業人口が減少、農地が集約され大規模化が進むと、農業の再生と豊かな農村が実現するのではないかという感を強くする。(完)

◎今後の社会保障改革 － 2040年を見据えて－

・ ・ 東大三鷹クラブ第144回定例懇談会のご案内

今回、大先輩の平賀さんよりお誘いいただき、第144回の三鷹クラブ定例懇談会で話題提供の機会をいただいた伊原和人です。

私は、1983年（昭和58年）に文科I類に入り、三鷹寮に入寮しました。2年生の秋に

本郷の東大 YMCA 寮に移るまでの 1 年半余りお世話になりました。30 有余年も前のことで記憶も定かではありませんが、在寮中の思い出といえば、「徹夜麻雀」、「ICU 女子寮へのストーム」、「深夜になると砂利が沈む水風呂」といった男くさいものばかりです。残念ながら、青年学生にありがちな知的刺激あふれる会話を交わした記憶はありませんが、今なお忘れ得ぬ出来事があります。

その一つは「ノミ・シラミとの戦い」です。諸先輩方と異なり、私が入学した頃には、公衆衛生水準も向上し、さすがに「ノミ・シラミ」に悩まされた経験のある者はおられません。ところが、1 年の晩夏に帰省から戻ったところ、その晩から猛烈なかゆみに悩まされることとなりました。何と部屋に居付いていた猫が、我がベッドで子を産み、その際、これらを残していったのです。ベッドで横になっていると、顔の上や腕の周りを何かか飛ばす気配がするのです。「ジャパン・アズ・ナンバーワン」などと言われるようになった時代に、よもやこんな経験をするとはいとも思いませんでした。

もう一つが「ぎんなん」です。三鷹寮内にも何本か立派な銀杏の木があり、秋になると、数多くの実を落とします。それを部屋の先輩が拾ってきて、あの臭いを我慢しながら中身を取り出し、天日に干していました。土曜の夜になると、いつとはなしに麻雀大会が始まるわけですが、深更になると電気コンロの上でぎんなんを炒り始めるのです。やがてパチパチと始まり、ついにパーンと弾けます。これを塩で食べるのですが、何とも美味でした。茶碗蒸しに入っている「豆」程度と思っていたぎんなんですが、こんな面倒な手間をかけていると知って愛着が湧きました。それ以来、ぎんなんを食するたびに、この時のことを思い出します。

さて、今回の懇談会では、日本の社会保障の今後について、お話させていただきたいと思っています。今年 10 月、消費税が 10%に上がると、2025 年を念頭において進められてきた「社会保障・税一体改革」が一区切りを迎えます。しかし、未曾有の人口減少が進行中の日本にとって、社会保障改革は次のステップへと進んでいかねばなりません。財政再建との関係は無論のこと、今後は、現役世代の急減という事態を前に、「担い手不足」というテーマに直面します。こうした課題への対応などについて、お話したいと考えています。

日 時 : 2019 年 5 月 7 日 (火) 18 時 30 分~21 時

場 所 : 学士会館本館 302 号室 (千代田区神田錦町 3-28 TEL 03-3292-5931)

講 師 : 伊原 和人 厚生労働省大臣官房審議官 (社会保障担当) (昭和 58 年入寮)

会 費 : 6000 円 (会場費、夕食代・飲み物代、通信費など込み)

申込先 : 平賀・干場 FAX 03-5689-8192 TEL 03-5689-8182

(有) ティエフネットワーク Email : tfn-hoshiba@blue.ocn.ne.jp

◎130 号到達、ご愛読感謝！(結びに代えて)

東大三鷹寮の同窓会、東大三鷹クラブの隔月に一回の講演会の告知も兼ね年 6 回、駄文を送り 130 回。徐々にメールに切り替え経費も削減。感じるころがあると携帯にメモリ、パソコンに送る。貯まった草稿を隔月に一回週末に編集。印刷屋に回し、読者にもメール。パソコンに向かい白地に打込むより大分楽に。恥も外聞もなくこんなものと思いつつ、今更止められず。営業先で話題になったりすると矢張り嬉しい、止められず。再見！